資料17

第21回

沖縄県のがん対策に関する タウンミーティング

無料
申し込み不要
定員50名

＜今回のテーマ＞

がん患者にとって、適切な「意思決定支援」ができるようにするためにはどうすればよいのか

ご自身やご家族が、自ら希望するがん医療やケアを受けるために、“今”できることは何か。

「どのような治療を受けるのか？」
「これからどう過ごしていくか？」
を相談する『意思決定支援』について、ご一緒に考えてみましょう。
ご家族、ご友人とお誘いあわせの上、ご参加ください。
あなたの声が今後の沖縄県のがん対策に必要です。

みなさまのご参加をお待ちしております！

日　　時

平成３０年
11月10日㊏
開演：午後１時～３時（午後12:30開場）

浦添市てだこホール

生涯学習棟2階　多目的室1

主 催：琉球大学医学部附属病院がんセンター
後 援：沖縄県がん診療連携協議会

MAP

〒901-2103
浦添市仲間1-9-3番地

プ　ロ　グ　ラ　ム

【　テ　ー　マ　】

がん患者にとって、適切な意思決定支援ができるようにするためにはどうすればよいのか

１２：３０　開　場（ご意見シート記入）

１３：００　開会のあいさつ

増田　昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授）

１３：０５　意思決定支援；医療者の立場から

増田　昌人

１３：２５　意思決定支援；がん患者の立場から

天野慎介さん（（一社）グループ・ネクサス・ジャパン理事長）

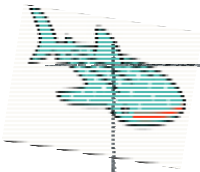
１３：４５　休憩（ご意見シート回収）

１４：００　全体討論

司会　埴岡健一さん（国際医療福祉大学教授）

１５：００　閉会のあいさつ

増田　昌人



◆ お 問 合 わ せ 先 ◆

琉球大学医学部附属病院がんセンター

☎ ：098-895-1368／1369／1374

fax：098-895-1497

HP：http://www.ryukyucc.jp

第21回　沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング

【テーマ】がん患者にとって、適切な「意思決定支援」ができるようにするためにはどうすればよいのか

１．日　　　時：平成30年11月10日（土）13：00～15：00

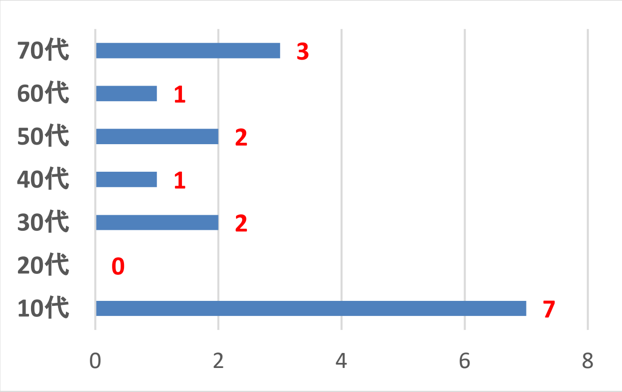
２．場　　　所：浦添市てだこホール　多目的室 1

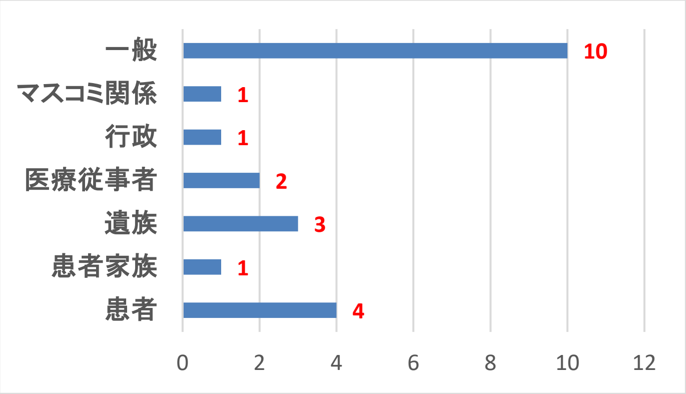
３．参 加 人数：22名（患者 4名、患者家族 1名、遺族 3名、医療従事者 2名、行政1名、
　　　　　　　　マスコミ関係1名、一般10名）

第21回沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング　アンケート集計

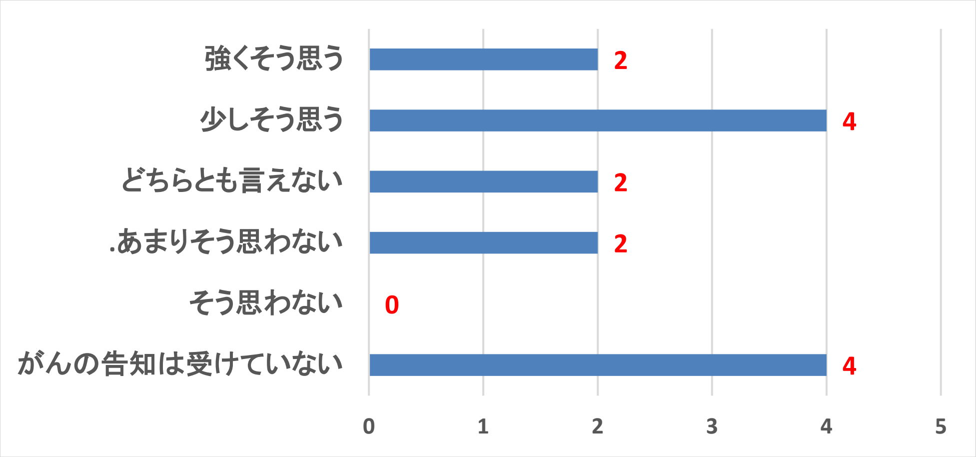
テーマ：がん患者にとって適切な「意思決定支援」ができるようにするためにはどうすればよいのか。

参加者合計：22名

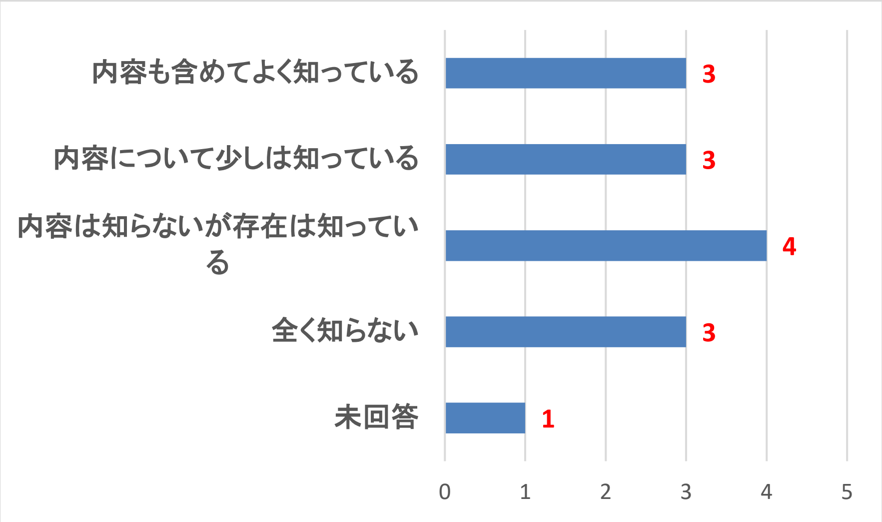




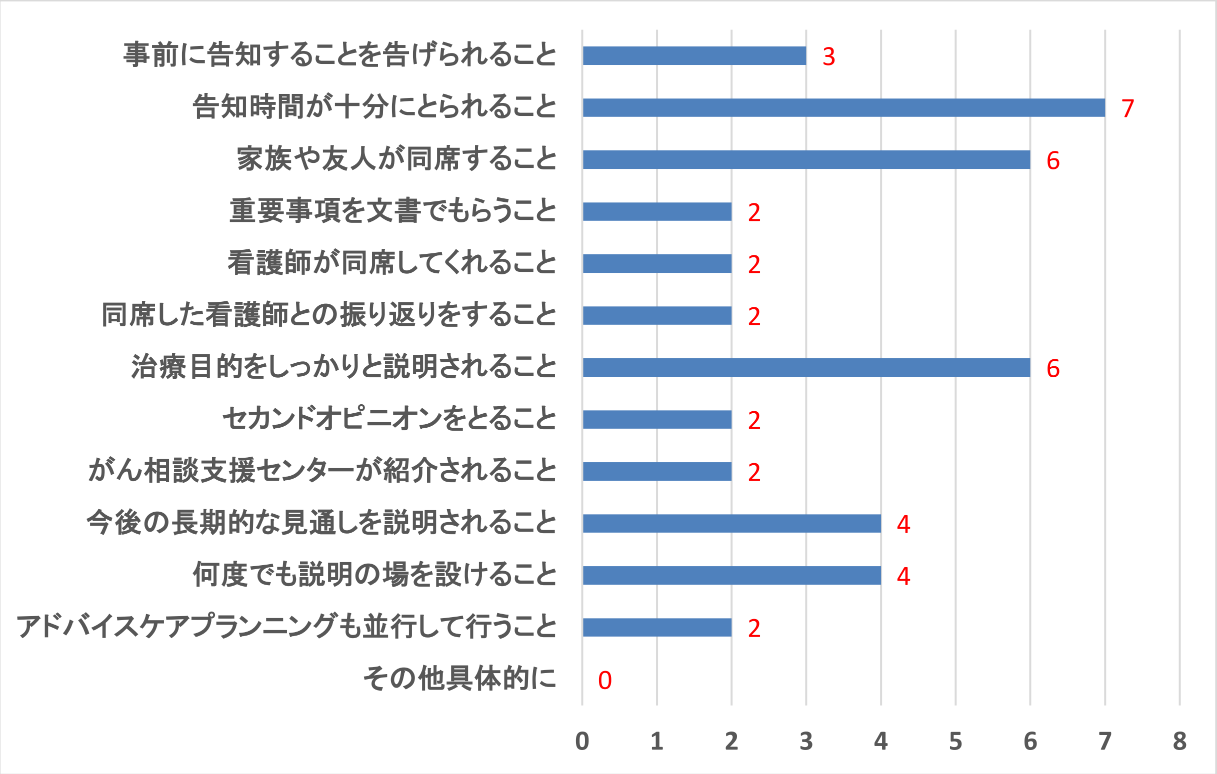
問1.あなたやご家族が受けたがんの告知に満足していますか。一つ選んで〇をつけてください。



問2.第３次沖縄県がん対策推進計画(案)(平成30～３５年度)の存在はご存知ですか。



問3.個別テーマについて
がんの告知で最も重要であると思うことを下記から選んで〇をつけてください(3つまで)



問4.がん患者さんの気持ち(意思)を尊重したがん医療を受けるために、インフォームド・コンセント(説明と同意)やがんの告知をどのようにかいぜんしていけばよいと思いますか。

現状の問題点と課題

●医療者が説明をしただけになっている気がする。医療者が「説明したのに」「言ったのに」と思ってないか？
●出来れば収入や労働についても情報提供して欲しい。知らない人多い。
●意思決定について、がんに限らず必要
●病院。中でも医師レベル。選ばれません、患者は。健康なお医者様が多いのですが。(乖離があるようです。)
いつまで患者でいるのでしょうか。誰がほめるの。私？医師？
●お金が200万円かかるといわれ生命保険適用外の治療に移りましたが、、、「健康」ミクロの世界をしっかり説明してほしいです。
●がんと聞いたら、すぐ死を考えてしまいます。必ず良くなるんだという安心感が必要を思います。今生きているんだと思う心、感謝の心です。
●医者が多忙で気を使ってしまう。
●本人に告知する時間10～15分程度→外来での対応。Nsの同席なし、又記録もなし
●家族の同席もなく1人でがん告知を受け、しかも心理的配慮を欠いた告知だったとおっしゃる方がいた。
●セカンドオピニオンは患者の当然の権利だと言っても患者家族は遠慮しながら勇気を振り絞って切り出すと思うが叱られたとおっしゃる方がいた。
●説明や告知を受ける環境の整備(場所、時間、人的サポート体制、情報提供等)が不十分
●がんに限らず、広く、新しく、正しい情報を得て、セカンドオピニオンも得て自ら決めることが一般的に認識されていない。
●クリティカルパスにICやセカンドオピニオンが入っていない。いわゆる入院治療パスになっており、入院前退院後の内容組み込まれていない。患者用パスも同様。
●よくわからない
●よくわからないが、告知というものは自分だったらしっかりして欲しい。残りの時間を満足に過ごしたいから。

実施して欲しい対策

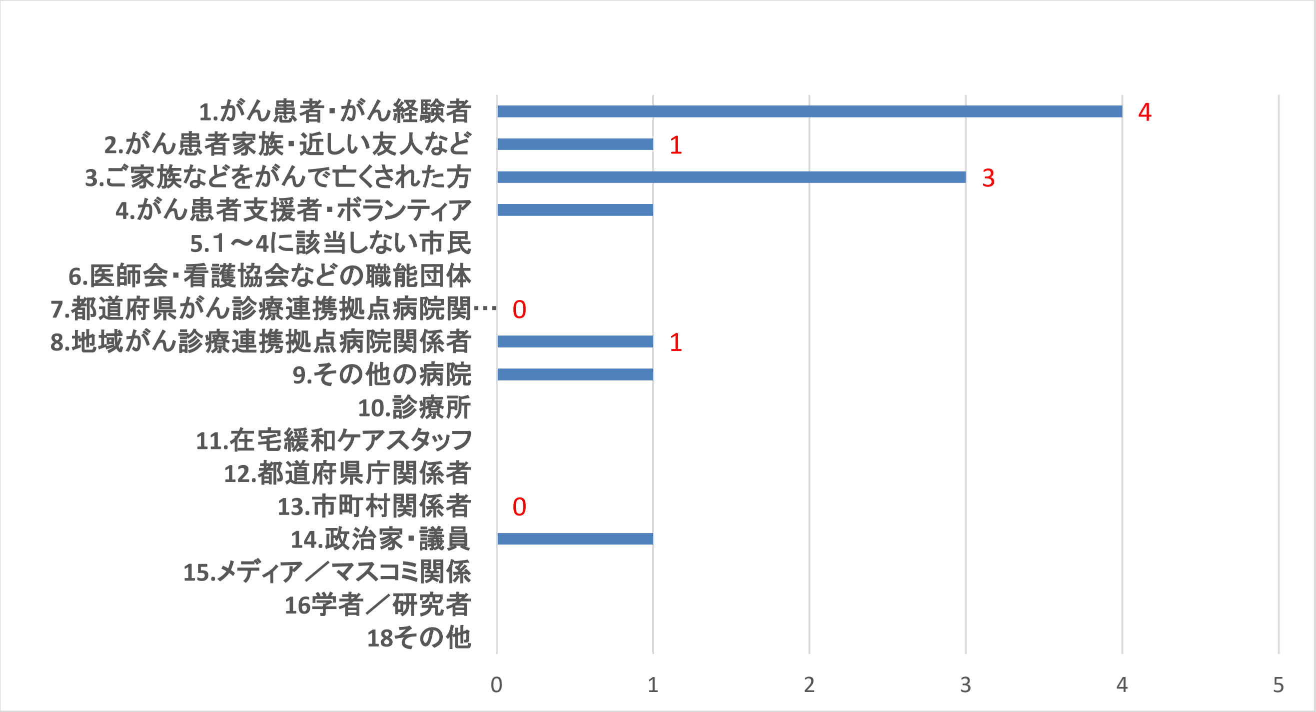
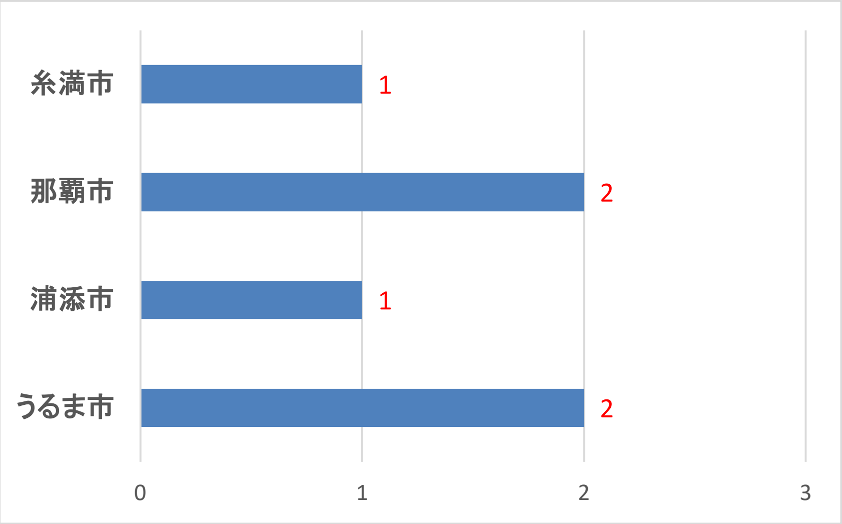
●丁寧な対話をする
●気軽に話せる窓口
●ものすごいDrに出会いました。やはり長い時間(年月)の大切な時間、3～5分でも細かく持って患者の症状をカル

テに保存していることが大切です
●今、自分にできる事を始める、少しでも人様の役に立つことで幸せな気持ちになると思います。
●症状や治療法の説明にもっと時間をかけて欲しい。医師や看護師以外に、患者家族の思いにじっくり寄り添う専門職が必要。
●Drムンテラ30分程度 Ns情報整理30分（現在の心理状況、サポート状況 病気の治療方針(方向))段階的に病気の受容するまで持っていく今後の希望、体の変化）段階的に病気の受容するまでもっていく
●琉大がんセンターに「なんでも電話相談」の体制が取られると有難い
●必ずしも主治医が告知する必要はないかもしれない。コミュニケーションのプロに任せたほうがいい。
●必ず家族、友人などの同席。緩和認定看護師などが同席し先生の説明後にフォローできる体制で告知して欲しい
●患者や家族から切り出す前に先生の方からセカンドオピニオンを受けたいのであれば紹介しますと、どの患者にも伝えて欲しい。どの病院の先生がおすすめですと丁寧に行って欲しい。患者家族は何も情報がない。
●各種がん患者パスの見直し→各病院のパス大会はあるので、全県下で年度テーマを決めて改善に取り組む事
●がん地域連携パスの見直し
●「がん患者指 管理課」のように、診療報酬で誘導することが標準化 点化の一方法だと思う
●よくわからないけど予算が少ないなら増やしてほしい
●伝えてほしくない人もいると思うからすぐには伝えないほうがいいかもしれない

問5.全体について
沖縄県のがん対策推進計画、沖縄県のがん対策のための予算(財政)措置などの全般に関してご意見をお聞かせください

●さっきリレーフォーライフで他の病院で告知を受け大きな病院に行っているけど治療費も高い仕事もしないといけない、大変、どうしようと話しかられました。
患者会の紹介、治療の相談場所を紹介して欲しい
●予防にもっと予算をさくべき
●沖縄県は離島の患者家族の支援として平成29年から宿泊支援を行って支援している市町村に対して半分を県が補助するということですが市町村が財政が厳しいところではやらないので患者や家族には行き届いていません
南部医療センターとなりのがじゅまるの家のようなファミリーハウスを拠点病院のそばにつくって必要な人が安価で泊まれるようにしてほしいです。
●タウンミーティングを続けてください。県民性として話せる方も多いと思いますのでご配慮を！
私は「夫」といつも二人でした。家族のように親しくなりました。長くなると明るい性格のDoctorがいいですね。
Peを受け入れる大物Drと出会ってください。

ご自身に関して
【1】下記から最も近いものを一つ選んで〇をつけてください・



【2】お住いの市町村を教えてください。